

今回は、学校推薦型選抜を活用した進路実現の報告です。

◇ 名古屋大学教育学部の合格体験記（後藤愛さん、吹奏楽部長）です！

私は、名古屋大学教育学部に学校推薦型選抜で合格しました。推薦を受けると決め、対策を始めたのは高校3年生の12月と遅かったですが、私が名古屋大学に合格することができたのは、自分のキャリアプランニングを明確にし、情報を集めることができたためだと思います。その上で私が受験期に大切にしていたことをお伝えしようと思います。

私は、中学生のとき、同級生が自分の悩みをスクールカウンセラーの方に相談していたことをきっかけに臨床心理士という職業に興味を持ちました。

高3になってから勉強の合間に、この興味を持った心理学という分野に関して、気になったこと、関心を持ったことを納得の行くまで調べました。そのようなことが私の大きな勝因の1つだと思います。臨床心理士について調べ、本を読み、心理学に関する出典の国語の問題や英語の問題があったら、疑問に思ったことを書き留め、論文を読みました。また自分自身で調べても分からないことがあったら、周りの人に意見を聞いたり、先生方や心理士の方から様々なお話をうかがったりしました。

主体的に学びを深め、意欲や情熱をその学問に対して持っている。そのような人材がどの大学でも求められているのではないかと私は今感じています。

もしかして、私の行ったことを読んで、「そんなことできるわけない」と思った方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、皆さんはFRHの活動を通して、このように自身で情報を集める能力というものをすでに身につけているのではないかと私は思っています。他校の方々と戦っていく中でこのような経験は、きっと大きなアドバンテージとなると思います。とはいえ、このように語っている私自身は、FRHにもものすごく一生懸命取り組んだわけでも、ものすごい成果を上げたわけでもありません。この”経験“自体が私自身の武器となり、一般選抜に加えて、学校推薦型選抜という新たなチャンスを生み出してくれたのだと思います。

推薦を今受ける気がないという方も、このことは学習にも共通すると思います。自分のわからなかったところをそのままにするのはもちろん危険です。加えて、特に2次対策においては、わからないところを先生方に教えていただいたり、自分の答案を添削してもらったりするということが、成績を上げることに直結すると思います。関高校の先生方は本当に分かりやすく丁寧に、1人1人と向き合って添削して下さいます。一般選抜においても推薦においても、先生方はきっと皆さんの心強い味方になってくださるのではないのでしょうか。

最後に、現時点の成績・実績で志望校のレベルを下げてしまうのは本当にもったいないです。皆さんの学力は、想像しているよりもずっとこの1・2年間でのびますし、調べたり情報を集めたりすることは今からでもできます。私自身、4月の模試の時点ではC判定でしたが、8月にはA判定が取れるようになりましたし、先述したような情報収集を始めたのは高3の冬からです。だから、自分を信じてこの1・2年間戦ってみてください！皆さんが頑張った分だけ、絶対に結果はついてきます。

これからも皆さんの輝かしい未来を影ながら応援しております。最後まで読んでくださりありがとうございました。



(写真：吹奏楽部の活動の様子)